

# 島根県消防学校だより vol.16

## 初任総合教育 第56期 『卒業式』

11月21日(月)初任総合教育第56期生46名の卒業式を島根県防災部次長竹内様、島根県消防長会会長(松江市消防長)渡部様を始め、各消防本部消防長様他、多数の御来賓の御臨席を賜り盛大に挙行致しました。式典は9時から屋外で卒業展示の訓練礼式、救急演習、救助演習、消防演習と進み、11時30分から屋内式典を行い12時30分に終了しました。

4月には不安を抱えながら入校してきた学生も、この日は大きな期待を胸に門を出て行きました。一人も欠けることなく、本校での厳しい訓練を耐え抜いた若者達に、教職員一同、今後益々の活躍を期待するものです。

### 『卒業展示』

#### 【訓練礼式】

出雲消防、遠藤学生指揮の下、「通常点検」から開始され、「中隊の停止間・行進間の動作」を行い「分列行進」で締めくくりました。



#### 【救急演習】

雲南消防、曾田学生指揮の下、「大型バスと普通乗用車の正面衝突事故による多数傷病者」の想定で、出動隊は指揮隊1隊、救急隊5隊、消防隊2隊、救助隊1隊で行われました。

#### 【救助演習】

松江消防、江隅学生・江津消防、金子学生指揮の下、「ロープ応用登はん」「はしご登はん」から開始され、渡過は「セーラー」「モンキー」「チロリアン」「セーラーフォールセーラー」「セーラーターンモンキー」、降下は主塔から「オーバーハング」副塔から「リペリング」を学生全員で披露しました。



#### 【消防演習】

江津消防、堂面学生指揮の下、防火衣、呼吸器着装の後「中高層建物火災」の想定で、出動隊は指揮隊1隊、消防隊6隊、救助隊1隊、救急隊2隊で行われました。



#### 【屋内式典】

屋内式典では、堀江校長が一人ひとりに卒業証書を読み上げて手渡した後、「諸君は、これから時を選ばず、場所を選ばず、状況を選ばず、人を助けなければなりません。そのためには、強い精神力、知力、体力、技術力、人間愛が必要です。」と式辞がありました。

来賓からは、島根県知事(代理 竹内防災部次長)と島根県消防長会会長(渡部松江市消防長)からそれぞれ御祝辞をいただき、益々消防人生への決意を強固にしました。

最後に卒業生を代表し、総代の遠藤学生(出雲消防)が「すべての経験が私たちの水となり、嵐のように厳しい訓練が、私たちの根っこを強くしました。」と謝辞を述べ、全員が新たな誓いを胸にしたようです。

優秀賞は、堂面 翔太(江津消防)、宮廻 将吾(松江消防) 江隅 秀平(松江消防) 加藤 宏次郎(大田消防)の4名が受賞となりました。



各消防本部から1名ずつ、題『初任総合教育を終えて』の手記をいただきました。

【松江市消防本部 佐藤 平】

11月21日初任総合教育を終え、新たに消防人生のスタートを切りました。振り返ると消防学校での生活の記憶は1日1日がとても強く印象に残っています。消防学校入校中、本当にたくさんのことを学びました。その中でも特に自分が学んだことが三つあります。

一つ目は、救助の厳しさです。人を助けたいという気持ちだけでは助けられないと訓練を通じ感じました。濃煙熱気の中での活動や暗闇の現場など、普段と違う環境で活動すると焦りが出てきて出来なくなることが訓練の中で多くありました。これからも技術、体力の鍛錬を怠ることなく「助けたい」を「助けられる」にしていきたいと思います。

二つ目は、二重の安全です。一つの安全ではなく二重に安全を作ることで、自分や仲間の命が守れることを学びました。教官からも安全管理で一番注意を受けたと思います。

最後に、仲間の大切さです。この7ヶ月半、共に生活してきた46人の仲間は、本当に大事な仲間です。全員で声を掛け合い、辛い訓練も励まし合って乗り越えることができました。そんな雰囲気がとても好きでした。遠藤総代をはじめ、このメンバーで過ごせた7ヶ月半は、間違いなくこれまでの人生で一番充実していました。

これからも56期で過ごした日々は忘れません。56期の仲間と教官方と出会えて良かったです。本当にありがとうございました。

【浜田市消防本部 浜本 真生】

初任総合教育第56期では「一期一会」というスローガンを掲げて、約8ヶ月に及ぶ厳しい学校生活を過ごしました。思い返すと苦い思い出がほとんどです。しかし、その分達成感はずごく感じています。中でも一番の思い出は、宍道湖一周のスーパー体力錬成です。46人全員で走りきることは出来ませんでした。みんなで声を掛け合い、助け合いながら走り切れたのはとても良い思い出です。

また、入校時の頃を思い出すと何の知識や技術もなかったように思います。今では知識、技術が身につけて自信を持って動けるようになりました。これから自分たちは、本当の現場に向かうこととなります。もちろん不安が大きいです。そのために今まで厳しい訓練を行ってきたので、自分はやれると思っています。

これから56期それぞれが各所属へ帰りますが、皆やることは同じです。これから、56期46人に出会えた「一期一会」を大切にしながら頑張っていきたいと思っています。市民の方々の為に。

【出雲市消防本部 倉橋 光太】

私は、たくさんの不安を抱えながら初任総合教育の入校式を迎えました。入校と同時に、想像を超えた厳しさを体感しました。毎日の訓練では、不備があるたびに厳しい指導が入るため、予習は絶対に欠かせませんでした。初めの頃は、怒られたくないから予習をしておこうという気持ちでいましたが、気付くと予習をすることが当たり前になり、自分のためにしておこうという考えに変わっていました。こうして学んだ訓練等に対する心構えを今後も忘れずにいたいです。

8ヶ月という短い期間でしたが、46人で様々なことを乗り越え、教官方からたくさんの大切なことを教わり、人間として消防人として大きく成長することができたと思います。消防学校で学んだことは何年経っても忘れず、これからの消防人生に生かしていきたいです。



【益田広域消防本部 小川 翔】

私が、初任総合教育を終えて一番に感じることは、あっという間に過ぎた8ヶ月間だったということです。入校当初、技術面・体力面に不安を抱えていて「同期と一緒に学校生活が過ごせるか」「ちゃんと卒業できるだろうか」という気持ちしかありませんでした。それでも、今こうやって卒業できたのは、消防人として必要な能力をたたき込んでくださった教官方と、苦楽を共にし、辛いとき協力し合った同期のおかげです。

一番初めにしたホースラン校庭10往復、皆何度も諦めそうになったのに全員完走できたのは、同期全員で支え合ったからこそできたのだと思います。宍道湖一周スーパー体力錬成でも、足を痛め、引きずりながらもゴールできたのは、声を掛け合って気持ちを切らさないことができたからです。「消防という仕事は一人ではできない。一人が出来ても、他の人ができなければ意味が無い。」職務遂行の為に必要なものが、この8ヶ月で痛いほど分かりました。

初任総合教育を終え消防学校を卒業した今、新たな消防人生のスタートとなります。これから待ち受けているのは本物の現場です。消防学校で教わった技術をさらに磨きをかけ、日々向上心を持って仕事に励みたいです。



### 【大田市消防本部 森脇 直人】

4月6日、何も分からない状態からスタートした消防学校での生活では、いろいろな経験ができ、その中で学んだことはたくさんありました。高校を卒業してすぐに就職し、浮かれた気持ちを一気に引き締められた入寮式。同期46人で初めて顔合わせをしました。その時、自分はこの中でこの後やっていけるのか不安で仕方ありませんでした。しかし、時間が経つにつれそんな気持ちはなくなりました。

消防学校では、座学、救急、消防、救助と学びました。その中で、一番印象に残っているのは救急です。救急の講義、実技で救急にとっても魅力を感じました。救急救命士の方々の話を聞いて、救急救命士になりたいという気持ちがよりいっそう強くなり、将来救急救命士を目指したいと思います。

また、他に公務員としての心構えやルールを教えてくださいました。この8ヶ月間で学んだことを活かし、地域の方々の安全を守っていきます。



### 【安来市消防本部 山尾 俊輝】

4月7日、消防学校入校の当日は、不安な気持ちが大きかったことをはっきりと覚えています。消防学校は厳しいところという漠然としたイメージを持っていましたが、入校前日の入寮の際、いきなり厳しい洗礼を受け、一気に甘えた気持ちをそぎ落とされました。なれない寮生活や厳しい教官、厳しい訓練とこれまでの生活とは全く違う環境に四苦八苦ししましたが、同じ気持ちを持った45人の同期と協力し助け合うことで様々なことを乗り越え、無事全員揃って卒業を迎えることができました。

特に思い出に残っているのは、9月にあった宍道湖一周スーパー体力錬成です。50kmと今までに走った経験がない未知の距離で、不安もありましたがなぜかワクワクしながらスタートしました。足が痛くなることは予想していましたが、30kmを過ぎたあたりで案の定、膝と足首が激痛で何度も心が折れそうになりましたが、仲間との助け合いで走りきることができ、自信にもなりました。

また、「消防学校といえば厳しい」と言っても過言ではないくらい何度もペナルティをいただき、何かあるたびに腕立て、スクワットを行いました。力が入らずできなくなっても、まだまだ続けなければならないのは、体力的にはもちろん精神的にも辛かったですが、このペナルティをとおして体力的、精神的に強くなることができました。

訓練礼式、消火活動訓練、救助訓練とどれをとっても厳しい訓練が多かったですが、56期の仲間と過ごした8ヶ月間は、とても濃いものとなりました。消防学校を卒業し、これからは現場で働く事になりますが、今までとは違い自分の安全は自分で守らなければならないし、市民を相手にする仕事として失敗は許されません。消防士としてのスタートラインにたった今、知識・技術共にまだまだ未熟である事を自覚し、日々自己研鑽を重ねて、早く市民に信頼される消防士になれるよう、これからも成長していきたいと思えます。

### 【江津邑智消防組合消防本部 城納 直之】

私が消防に合格してから一番不安だったのが、消防学校での訓練についていけるかどうかでした。知り合いからは「初任科は厳しいぞ。がんばれよ。」と脅され、どんな訓練をしているかなど想像もつかず、体力自慢の猛者が集まっていると考えると不安しかありませんでした。唯一の救いが、中学・高校と同じだった親友が同期だったことです。そのことで、他の人より気持ち的には楽だったかもしれません。

8ヶ月間の消防学校生活の初日、この日行われた入寮受付は、一生忘れることができません。「初任科は厳しいぞ。」の意味を一瞬で理解することができました。それから毎日きつい訓練がありました。「防火衣を着て動いてこそ消防士」の言葉で始まるホースラン。松江市内中に響き渡っていてもおかしくない怒号が毎日飛び交い、訓練礼式で番号が言えず腕立て伏せ300回、鳥取県消防学校との合同訓練、宍道湖一周スーパー体力錬成、今思い出すだけでもきついですが、この8ヶ月間で知識、技術、体力、精神力を養うことができ、人としても大きく成長できたと思えます。無事卒業できたのも45人の仲間のおかげです。

これからは、消防のプロになれるように頑張っていきたいと思えます。



### 【雲南消防本部 曾田 晃希】

4月7日に期待と不安を抱いて消防学校へ入校しました。前日の入寮の際には、教官から服装の乱れや入寮するにあたっての厳しい指摘を受けました。この時、正直8ヶ月間の学校生活が耐えられるか不安になりました。

座学では、消防士として必要な基本的知識の習得に取り組みました。初めの頃から専門的な話が多くて、授業中だけでは理解することができませんでした。しかし、勉強を重ねていくうちに少しずつ理解できるようになりました。座学で学んだ知識は、現場で活かさなければ意味が無いと教えられました。

実科訓練では教官に厳しく指導され、暑い中皆で声を出し、自分の限界まで訓練を行うことができました。苦しいときは学生同士で励まし合い、失敗したことや疑問に思ったことは小隊長など課外で見直しをして、団結力を高めたいことができました。

10月には、鳥取県中部地震のボランティア活動を行いました。実際に被災地へ行ってみると、家の屋根が崩れていたり、居室がボロボロになっていたりと、衝撃的な光景を見てショックを受けました。少しでも力になればと活動し、被災された方々から「ありがとう」と言葉をかけていただいたときに、力になれたのだと実感し達成感を得ることができました。

卒業展示で救急演習の総指揮者させていただいたことは、良い思い出となりました。展示全体を通して46人で力を合わせて最高の展示ができました。

この8ヶ月間で多くのことを学び、私自身協調性を高めることができました。これからは現場という更に厳しい現実が待ち受けていますが、教官方に教えていただいたことを思い出しながら、任務を遂行していきます。

### 【隠岐広域連合消防本部 笠置 健太郎】

消防学校に入校して8ヶ月が経ち、ついに卒業式を迎えました。入校当初は、周りに全く知り合いもおらず、教官達はとても恐ろしく感じ、不安なことばかりでした。しかし、日が経つにつれ信頼し合える仲間がたくさんでき、少しずつではありますが学校が楽しくなっていました。

訓練では、厳しい言葉が飛び交う中、一生懸命に取り組んできました。教官方の熱いご指導もあり、消防吏員としての知識・技術を身につけることができました。また、学校生活のおかげで人としてもかなり成長できたと思います。消防本部に帰ったら学校生活で得たものを基に、地域に貢献できる消防吏員になりたいです。とても思い出深いいい8ヶ月間でしたが、この卒業がゴールではなく、これからさらに上を目指し成長していきます。

## 消防職員 幹部教育 中級幹部科第29期

12月12日(月)から12月20日(火)の9日間、消防職員専科教育「中級幹部科第29期」を実施しました。この間16名の学生は、総代 佐藤靖和学生(出雲消防)を中心に幹部職員として「消防行政の動向を理解し、迅速かつ的確な意志決定により、上司の補佐及び部下の指揮監督を行い、組織を管理運営できる。」を到達目標にして取り組みました。

講義では、消防大学校の鈴木教授による「現場指揮と部下指導」、渡部松江市消防長の「中級幹部の役割と心構え」で、いずれも人材育成の重要性を説かれました。

また、12月16日(金)には島根県防災部職員、松江市防災安全課職員の方々をオブザーバーにお招きして、島根県東部発生の大地震を想定に「緊急援助隊受援対応図上シミュレーション ロールプレイング方式」を行い、国、県、市、緊急消防援助隊、受援側消防、に分かれてそれぞれの立場でシミュレーション訓練を行い、改めて受援の難しさを痛感しました。

この消防職員幹部教育で、島根県消防学校の平成28年中の教育を終えました。



### 編集後記(事務局より)

初任総合教育第56期生46名は、所定のカリキュラムに基づく厳しい訓練と知識の習得を経て、このたび全員卒業の日を迎えました。思い返せば、鳥取県消防学校との合同訓練、宍道湖一周スーパー体力錬成など自分の体力の限界を知ることも訓練の一環でした。また、突然の行事となった鳥取中部地震のボランティア活動、DMA T訓練への参加など、学生達のスローガンであった思いがけない「一期一会」の機会も多々ありました。学生、教官にとって卒業は万感の思いであり、卒業展示でひとまわり大きくなった学生たちを見て、こちらも目頭が熱くなってきました。

今年もよろしくお祈りします

島根県消防学校

〒690-0046 島根県松江市乃木福富町735-157

E-mail: syobogako@pref.shimane.lg.jp

Tel: 0852-22-0166